

Bulletin of  
the Yokohama Phytosociological Society Vol. 7  
April 1977, Yokohama/Japan

# 姥屋敷の植生

Vegetation der Ubayashiki in N-Honshu  
(Iwate-Präfektur)

宮脇 昭・藤原 一絵・望月 陸夫

von

Akira MIYAWAKI, Kazue FUJIWARA und Rikuo MOCHIZUKI

1977.4

横浜植生学会

The Yokohama Phytosociological Society

Yokohama/Japan

Bulletin of  
the Yokohama Phytosociological Society Vol. 7  
April 1977, Yokohama/Japan

# 姥屋敷の植生

Vegetation der Ubayashiki in N-Honshu  
(Iwate-Präfektur)

宮脇 昭・藤原 一絵・望月 陸夫

von

Akira MIYAWAKI, Kazue FUJIWARA und Rikuo MOCHIZUKI

1 9 7 7. 4

横浜植生学会

The Yokohama Phytosociological Society

Yokohama/Japan

Bulletin of  
the Yokohama Phytosociological Society Vol. 7  
April 1977, Yokohama/Japan

姥屋敷の植生  
Vegetation der Ubayashiki in N-Honsyu<sup>※</sup>  
(Iwate-Präfektur)

宮 脇<sup>※※</sup> 昭・藤原<sup>※※</sup> 一絵・望月<sup>※※※</sup> 陸夫

von

Akira MIYAWAKI, Kazue FUJIWARA und Rikuo MOCHIZUKI

1 9 7 7. 4

横浜植生学会

The Yokohama Phytosociological Society

Yokohama/Japan

---

※ Contributions from the Department of Vegetation Science, Institute of Environmental Science and Technology, Yokohama National University No. 35

※※ 横浜国立大学環境科学研究センター Department of Vegetation Science,  
Institute of Environmental Science and Technology, Yokohama  
National University

※※※ 秋田県立湯沢高校 Yuzawa Gymnasium der Akita-Präfektur

## 目 次

はじめに	7
I 自然環境	11
1. 気候	11
2. 地形	13
3. 地質・土壌	13
4. 人為的影響	14
II 植生概観	15
III 調査法	17
1. 植生調査法	17
2. 群落組成表の作製	19
3. 植生図の作製	21
1) 現存植生図	21
2) 潜在自然植生図	21
IV 調査結果	22
1. みとめられた植物群落	22
A 自然植生	
<i>Natürliche Vegetation</i>	22
1) ヒメアオキーブナ群集	
<i>Aucubo-Fagetum crenatae</i> (Tab. 3)	22
2) マルバマンサクブナ群集	
<i>Hamamelo-Fagetum crenatae</i> (Tab. 3)	24
3) タチアザミハンノキ群集	
<i>Cirsio inundato-Alnetum japonicae</i> (Tab. 4)	24
4) 湿原植物群落 (春子谷地湿原)	
Moor-Vegetation (Haruko-yachi-Moor)	26
5) オオバセンキュウーオオバタネツケバナ群落	
<i>Angelica genuflexa-Cardamine scutata-Gesellschaft</i> (Tab. 5)	28
B 代償植生	

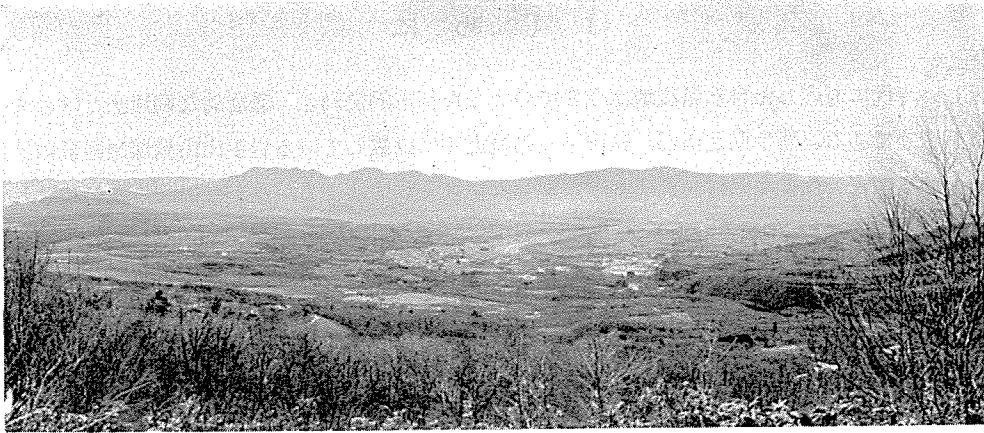
Ersatzgesellschaften .....	29
1) オオバクロモジ—ミズナラ群集	
<i>Lindera umbellata</i> var. <i>membranacea</i> — <i>Quercus</i>	
<i>mongolica</i> var. <i>grosseserrata</i> —Ass. (Tab. 6).....	30
2) 疎林 Lichte Wälder (Tab. 7) .....	33
a. ミツバウツギ—オオバザサ群落	
<i>Staphylea bumalda</i> — <i>Sasa megalophylla</i> —Gesellschaft .....	33
b. カスミザクラ—オオバザサ群落	
<i>Prunus verecunda</i> — <i>Sasa megalophylla</i> —Gesellschaft.....	34
c. カンワ—オオバザサ群落	
<i>Quercus dentata</i> — <i>Sasa megalophylla</i> —Gesellschaft.....	34
d. ハンノキ—オオバザサ群落	
<i>Alnus japonica</i> — <i>Sasa megalophylla</i> —Gesellschaft.....	34
3) オオバザサ群落	
<i>Sasa megalophylla</i> —Gesellschaft (Tab. 8).....	35
4) カラマツ植林	
<i>Larix leptolepis</i> —Forst (Tab. 9).....	36
5) アカマツ植林	
<i>Pinus densiflora</i> —Forst (Tab. 10).....	36
6) スギ植林	
<i>Cryptomeria japonica</i> —Forst (Tab. 11) .....	38
7) ススキ群落	
<i>Miscanthus sinensis</i> —Gesellschaft (Tab. 12).....	38
8) オオイタドリ群落	
<i>Polygonum sachalinense</i> —Gesellschaft (Tab. 13) .....	40
9) タケニグサ—タラノキ群落	
<i>Macleaya cordata</i> — <i>Aralia elata</i> —Gesellschaft (Tab. 14).....	41
10) カモガヤ群落 (牧草地)	
<i>Dactylis glomerata</i> —Gesellschaft (Tab. 15) .....	41
11) ナギナタコウジュ—ハチジョウナ群集 (畑地雑草群落)	
<i>Elsholtzia ciliata</i> — <i>Sonchus brachyotis</i> —Ass.	
(Acker—Unkrautgesellschaft) (Tab. 16).....	41
2. 植生図.....	45
1) 現存植生図 .....	45

2) 潜在自然植生図 .....	46
V 岩手山山麓部の潜在自然植生 .....	48
VI 姥屋敷（滝沢村レクリエーションセンター敷地）の植物相 .....	55
1. フロラの概要 .....	55
2. 植物目録 .....	56
VII 滝沢村レクリエーションセンター敷地における環境保全と新しい開発に対する植物社会学的立場からの諸提案 .....	69
1. 植生自然度 .....	69
2. 植生強弱度 .....	71
3. レクリエーションセンター敷地内における人工物と自然との調和 .....	72
1) 道路建設 .....	73
2) 建築物周辺の緑 .....	73
3) 牧草地の利用 .....	74
4) 並木 .....	74
5) 土砂ためおき場の処理法 .....	74
6) 池造成の場合 .....	74
おわりに .....	75
摘要 .....	76
Zusammenfassung .....	79
引用文献 .....	82

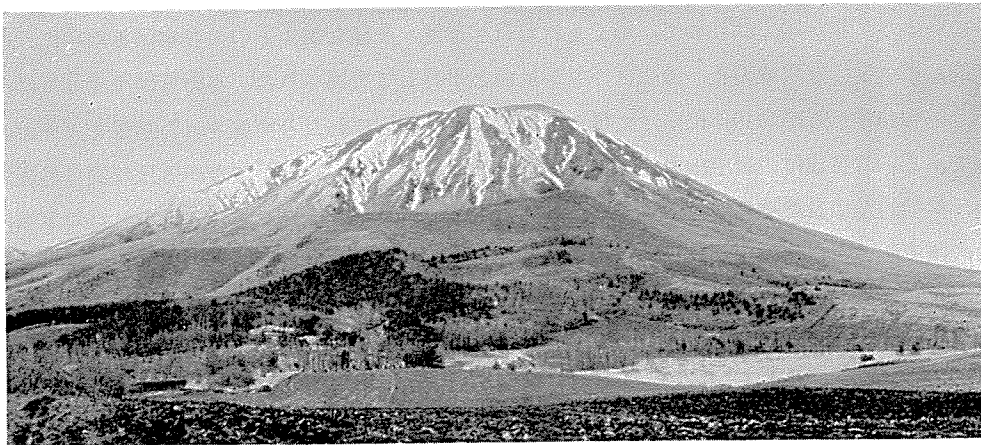
## はじめに

新しい時代に対応した自然保養地は今までのような都市的の便利さ、機能的な利用法だけの考慮では不十分である。岩手県北西部、秋田県の県境近くに位置している岩手山麓部姥屋敷に予定されている電電公社の滝沢村レクリエーションセンター敷地は、まだ豊かな田園景観が残されている。電電公社では今までの、いわゆる小都市化的な、レクリエーションづくりを脱却した、その土地固有の自然ないし半自然景観を残しながら、その枠内での自然と調和した新しい時代に応じた東日本総合レクリエーションセンターを計画・実施している。今までの自然域につくられた、我が国各地のいわゆる観光、レクリエーション施設づくりが、しばしば自然破壊をもたらした、その土地の自然、景観と遊離した異質な構造物になりがちであった。このような初期の掛声や希望と異った開発が行われた主な原因は、自然サイド、生命サイド、生態学的サイドからの基礎研究が、計画に際して全く行われなかったことによる。また一部そのような調査が行われても、計画、実施者が十分読みとることができないで、全く、自然や生態系と人間活動とのかかわりが無視されて行われてきたところに大きな欠陥があった。電電公社では、このような失敗例をくり返さないよう、我が国ではじめて、めぐまれた自然環境、多様な植生との共存を図るために、生態学的、植生学的な現地調査、植生図作りが計画と平行して実施された。本報告は不十分ではあるが、昭和48年から昭和49年にかけて現地で植生調査が数回にわたり実施された結果をまとめたものである。対象域は、岩手山をはるかに臨める、溪谷、丘陵、牧野がつながる比較的自然度の高い、典型的な半自然植生域であった。一見、雑木林、カラマツ植林が主体と見られた対象域内には、溪流添いの自然植生に近い湿生林も残されており、多様性に富んだ、安定した植生域であった。自然度の高い、また人間の干渉に敏感な湿生林などを残しながら間違いの少ないレクリエーションセンターを建設する為には、植生調査結果が、計画、実施者に正しく理解されなければならない。その点、本調査は理想的であった。用地買収の当初から植生調査が計画され、度々の現地調査には電電公社建築局の責任者、担当者が、多数現地調査に同行され、泥と汗と落葉にまみれながら協力し、体を通して、自然の実体、生物社会の本質について体得して戴いた。これら担当者、責任者の御努力と執念が、これからの自然と共存した間違いの少ないレクリエーション施設づくりに、生態学的な基礎概念を基本に十分に利用されるように強くのぞまれる。本調査を計画され、公私にわたり大きな御援助を戴き、報告書の出版についても、御配慮戴いた電電公社前建築局長大沢秀行氏、現小野哲男局長、田中正孝現次長に厚く御礼申し上げたい。また現地調査にも積極的に陣頭指揮をとって戴いた沖塩荘一郎前設計課長、現森下淳設計課長ならびに、小林健司前調査役をチーフとする建築局設計課の、当時の「小林グループ」の若手計画者の皆様の現地での御協力に厚く謝意を表したい。

また現地調査及び室内での資料整理では横浜国立大学環境科学研究センター専攻生の中村幸人・大山弘子氏の御協力を戴いた。記して謝意を表したい。



Phot. 1 網張温泉より調査地及び小岩井牧場方面を臨む。  
Aussicht von der heißen Quelle Amihari auf das  
Untersuchungsgebiet und die Koiwai-Viehweide.



Phot. 2 春子谷地遠望。後部にそびえる岩手山(2,041m)。周辺は畑地(写真手前)、牧  
草地、アカマツ植林(写真中部)などに利用されている。

Fernsicht von Haruko-yachi. Im Hintergrund der Berg Iwate (2,041 m NN). Im  
Vordergrund Acker. In der Mitte Vieh-Weiden, *Pinus densiflora*-Forsten und andere  
Vegetations-Typen.





Phot. 3 調査地内牧草地より岩手山を臨む。牧草地境界部に植栽されたカラマツ植林, 後部はアカマツ植林及びコナラ, ミズナラ林。

Von der Weide im Untersuchungsgebiet sieht man den Berg Iwate in der Ferne. In der Mitte liegen *Larix leptolepis*-Forsten und dahinter sieht man *Pinus densiflora*-Forsten und *Quercus serrata*-*Q. mongolica* var. *grosseserrata*-Sekundär-Wälder.

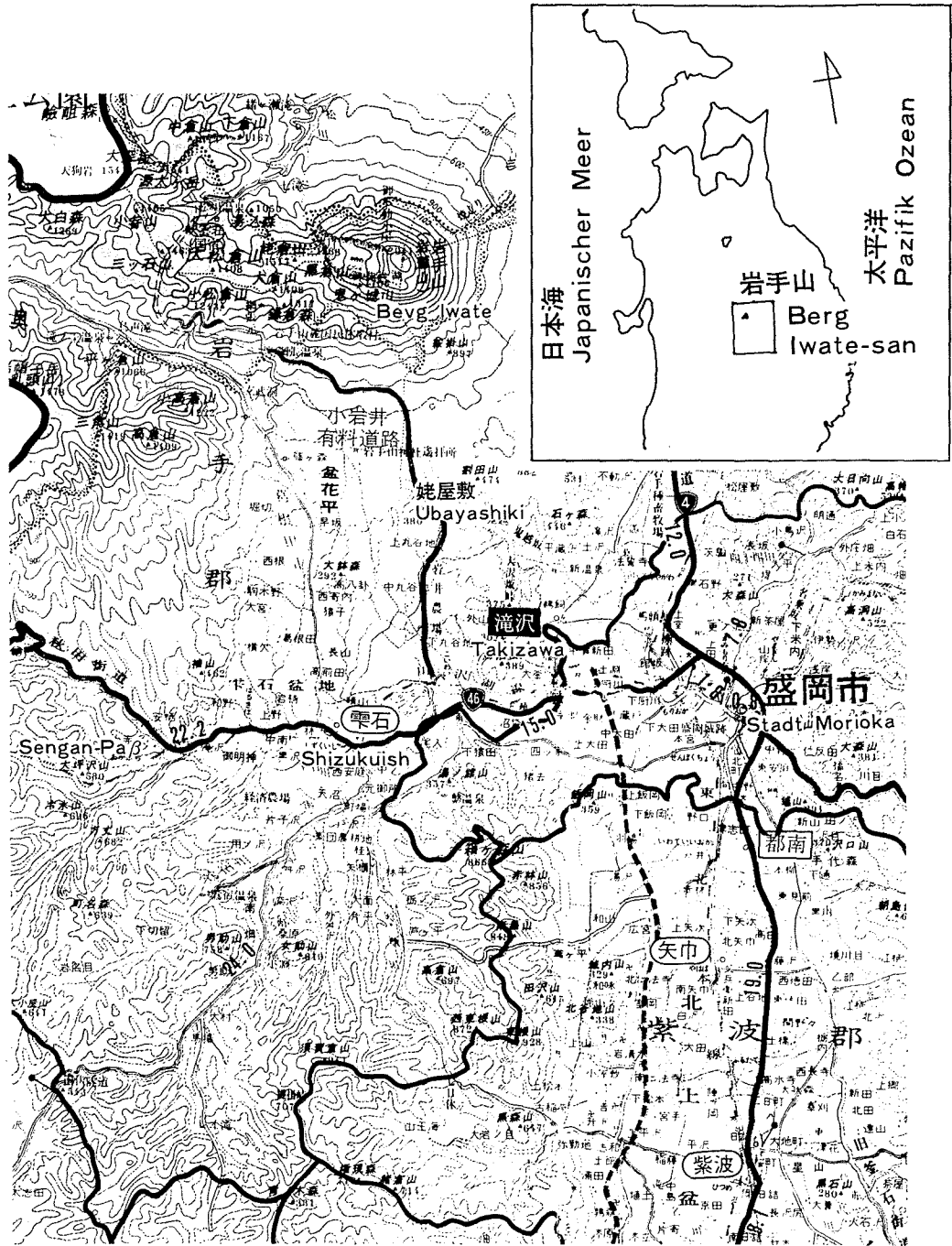


Fig. 1 調査地概況  
Untersuchungsareale